

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	奈良女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ナラジョシダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	316
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	奈良県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名5(連携大学等)	滋賀大学(滋賀県、国立大学)、滋賀県立大学(滋賀県、公立大学)、長浜バイオ大学(滋賀県、私立大学)、聖泉大学(滋賀県、私立大学)、京都府立大学(京都府、私立大学)、京都ノートルダム女子大学(京都府、私立大学)、京都華頂大学(京都府、私立大学)、花園大学(京都府、私立大学)、京都産業大学(京都府、私立大学)、天理大学(奈良県、私立大学)、奈良佐保短期大学(奈良県、私立大学)
	科目名	インターンシップ1
	学部・研究科等名	全学
	担当教職員名・役職	研究院 寺岡伸悟教授、矢島洋一准教授、比連崎悟教授、山本直彦准教授、学生生活課就職係長 中野一重
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	9
	受入企業等数	15
	受入企業等名	宮川バネ工業(株)、滋賀ダイハツ販売(株)、滋賀ビジネスマシン(株)、(株)西浅、シミズ薬品(株)、(社福)くらしのハーモニー、辻井木材(株)、(社福)協同福祉会あすなら苑、(株)ファーストグループ、(株)テレ・アンド・テクノミヤコ、市民生活協同組合ならコープ、(株)梅守本店、(株)アスパーク、(株)新流、(株)紅中
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	3C、SWOT分析を用いてオンラインでのPBLワークを実施。企業担当者へインタビューを含め、地元企業の社風・理念・使命を調べ、強みや魅力をポスター1枚にまとめ、参加学生、企業担当者、大学教職員の前でプレゼンを行う
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年
		大学 学部2年

②	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	低年次生を対象に、授業期間中の休業日の5日間に、事前・事後学習とPBLを組み合わせた科目「インターンシップ1」として実施している。本科目では、①PBLを通じて社会と企業を知る ②グループワークによる協調性と課題解決力を身に着ける ③キャリア形成に向けた自己のスキルと勉学の課題発見 をテーマに、自己の希望や適性を見極めていく準備を行い、個々の職業観を養う。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
		2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	全2回の事前学習の中でインターンシップの趣旨や目的の理解、企業研究やビジネスマナー研修を実施（第1回）。企業インタビューに向けて最終成果発表に向けてヒアリング内容をすり合わせるなどインターンシップ中の目標設定を行っている（第2回）	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	事後学習の中で事前に設定した目標と体験した企業インタビューでの学びがどのようにつながったのか、また実習先企業の社風・理念・使命がどのようなものであったかをグループで共有・比較し合い、発表会に向けプレゼン資料を作成している	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	大学の教職員が毎回提出される日報を参考にしインターンシップ期間中に随時学生とオンラインや対面で面談を行っている。事前学習の際に設定した実習での学びや目標達成に向けた状況確認や指導を行っている	

要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
4-3.上記回答内容に関する詳細	経済産業省が提唱している社会人基礎力（「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力）について問う、自己評価形式のシートを事前・事後学習で実施し、インターンシップを通じてそれぞれの力がどれほど向上したか等、教育的効果を測定している	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	事前学習①・事前学習②・企業インタビュー・事後学習・最終成果発表を合わせて計5日間のプログラムとして実施
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	今年度はコロナ禍により例年実施している現地での企業実習は実施できなかったため企業理解のために一般的に使用されている3C、SWOT分析を用いてオンラインでのPBLワークとして計5日間実施
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
6-3.上記回答内容に関する詳細	企業開拓の段階でインターンシップの意義や本インターンシップの目的を企業に理解いただいたうえで、プログラムの設計段階から参画いただいている。 また、事前学習やインターンシップ実施期間中に受入企業担当者と大学教職員との面談の場を設け、受入に係るニーズ把握や大学に対する要望等のヒアリングに努めている。	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://camjweb.nara-wu.ac.jp/campusweb/slbsbdr.do?value(risyunen)=2020&value(semester)=1&value(kougicd)=0154001&value(crclumcd)=003010
問いへ	大学等名	奈良女子大学
	担当部署名	学生生活課就職係
	担当者役職名	就職係長

目 わ せ 先	担当者氏名	中野 一重
	電話番号	0742-20-3948
	メールアドレス	syusyok@cc.nara-wu.ac.jp